

4 今後の課題

1 県民総参加型の教育の実現による教育立県秋田

2 H19~21学校改善支援プランより

- (1) 構造・論理・表現を重視して「活用」にかかわる学力の定着を図る。(読解力の向上も含めて)
- (2) 学年進行とともに学力を一層伸ばす。
(上位層の育成)
- (3) 地域による差をなくす。(一層の縮小)

3 小規模小学校の活性化

・教科担任制を可能とする教員配置の推進

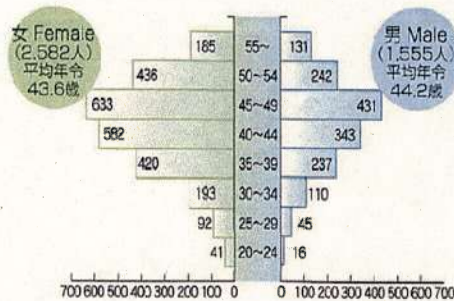
4 高校生の学力向上

・高校生未来創造支援事業に期待

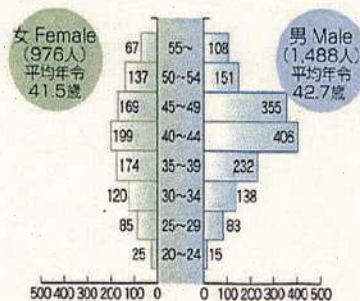
5 教職員年齢構成の改善と実践知の伝承

- ※ 5年後、10年後に危機感
- ・20歳代の教員の採用の確保
- ・指導力確保のための研修等の充実

小学校 (4,137人) 平均年齢43.8歳
Elementary School Average Age (43.8)



中学校 (2,464人) 平均年齢42.2歳
Junior High School Average Age (42.2)



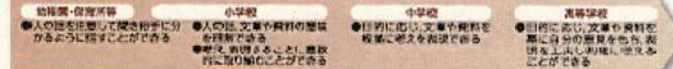
読解力を身に付けた秋田の子どもの育成を目指して

— 学校や家庭、県・市町村が連携し、学校段階に応じて、児童生徒の読解力の向上を図る! —

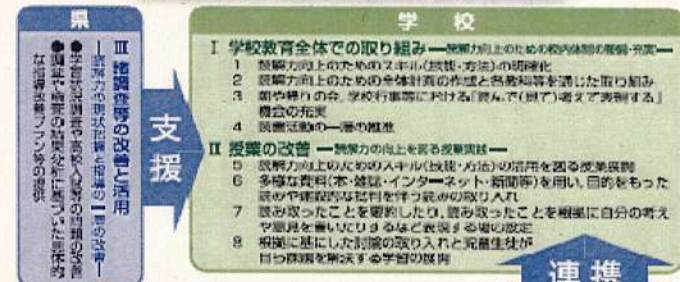
目標

- 中学校卒業段階まで「生活や学習に際して、問題を明確に把握し、よく考え表現し、問題解決することができるようにする。」
- 高等学校卒業段階まで「豊生活に際して、読解能力目標をもって取り組み、社会に効果的に参加することができるようにする。」

読解力を身に付けた児童生徒の具体的姿



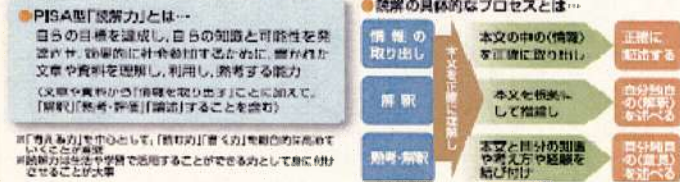
読解力向上のための四つの柱(取り組みの重点)

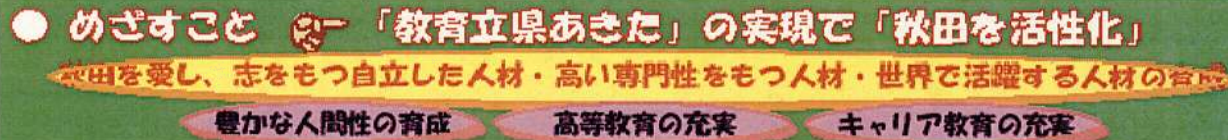


市町村・地域・連携

- 公共図書館や学校図書館等の整備
- ポッドキャスト等による読書機会や読書指導の機会の充実
- 読書活動の推進や読書活動の推進

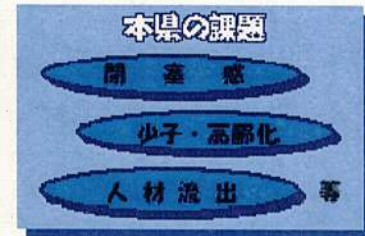
読解力の概要





“みんなが関心” “みんな育てる” 県民総参加型の教育

○学校・保護者・地域の連携・協力による学校教育の推進
 ○地域間の積極的な交流と適度な切磋琢磨による教育力の向上 → 全県トで地域間差のない、高水準の教育の実現



● **公表のメリット**

分かりやすさ・根拠が明確

- ・数値データを示すことで結果が分かりやすく伝わる。他地域との比較ができ、成果や課題等が一層明確になる
- ・成果や課題等の根拠が明確となり、分析への信頼・納得が得られる

関心の高まり・積極的参画

- ・保護者や地域の関心を一層高め、主体的、客観的な状況把握が可能となる
- ・子どもの教育や学校教育に積極的に参画する意識が高まる

具体的目標設定・取り組みの焦点化

- ・数値データを基に具体的な目標設定ができる
- ・具体的目標設定により取り組みの精選や焦点化ができる

一体となった取り組み・揺るぎない体制の確立

- ・保護者や地域を巻き込んだ取り組み、役割に応じた取り組みが充実
- ・他地域との交流、共同・連携による教育の改善ができる

変容把握の容易さ・信頼の獲得

- ・子どもの変容把握や経年比較が可能となり、取り組みの評価が客観的にできる
- ・成果の実感による信頼・協力の一層の獲得につながる

● **公表に対する基本的な考え方**

- ・市町村教育委員会は、主体的に、市町村における学校全体の状況について、数値データ（平均正答率）を含めた形の公表をすることが望ましい。

現 状

○保有データ

[市町村]

- ・市町村における公立学校全体の状況
- ・設置管理する各学校の状況

[学 校]

- ・学校全体の状況
- ・各学級及び各児童生徒の状況

○公 表

- ・市町村は、限られた範囲のデータをそれぞれの判断で、独自に分析し、数値を含めない形で成果・課題、今後の改善策等を公表。

限られたデータ保有

文部科学省の実施要領

[市町村]

- ・保護者や地域住民に対して説明責任を果たすため、当該市町村における公立学校全体の結果の公表については、それぞれの判断にゆだねる。
- ・域内の学校の状況について個々の学校名を明かにした公表は行わない。

[小・中・高 校]

- ・自校の結果の公表については、それぞれの判断にゆだねる。